

2024年7月9日記者発表資料

山形ビエンナーレ2024 in 蔵王

2024年9月1日(日)～16日(月・祝)

蔵王温泉、東北芸術工科大学

う
た
ら
し



()
め
ち
せ

biennale.tuad.ac.jp


YAMAGATA
BIENNALE

●開催概要（*2024年6月21日時点）

名称：みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2024

テーマ：いのちをうたう

会期：2024年9月1日（日）～16日（月・祝）

8月31日（土）：報道内覧会開催予定。詳細が決まり次第、お知らせいたします

会場：蔵王温泉、東北芸術工科大学

参加料：無料／一部有料プログラムを予定

主催：東北芸術工科大学

特別協力：蔵王温泉観光協会

協力：公益財団法人 斎藤茂吉記念館、蔵王鉱山歴史資料館、文化財保存修復研究センター

後援：山形県、山形市、山形県教育委員会、山形市教育委員会

総合プロデューサー：中山ダイスケ（東北芸術工科大学学長）

芸術監督：稲葉俊郎（医師）

総合キュレーター：小金沢智（東北芸術工科大学専任講師）

ディレクター：アイハラケンジ（アートディレクター／グラフィックデザイナー）、青山ひろゆき（東北芸術工科大学教授）、安達大悟（東北芸術工科大学准教授）、岩井天志（東北芸術工科大学教授）、深井聡一郎（東北芸術工科大学教授）、三瀬夏之介（東北芸術工科大学教授）、宮本晶朗（東北芸術工科大学准教授）、渡邊吉太（東北芸術工科大学准教授）

アートディレクター：杉の下意匠室

お問い合わせ：東北芸術工科大学 山形ビエンナーレ事務局 〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5 023-627-2218

会場

①東北芸術工科大学

②蔵王温泉



東北芸術工科大学



片道16km 車で20分



蔵王温泉



2エリアで開催する周遊型の芸術祭です

2020、2022に引き続き、芸術監督は医師の稲葉俊郎氏

芸術監督

稲葉俊郎 いなば・としろう

慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 (SDM) 特任教授



1979年熊本生まれ。医師、医学博士。東京大学医学部附属病院循環器内科助教(2014-2020年)、軽井沢病院院長・総合診療科医長を歴任(2020-2024年)。東北芸術工科大学客員教授(山形ビエンナーレ2020、2022、2024 芸術監督)、信州大学社会基盤研究所特任准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員、を兼任。在宅医療、山岳医療にも従事。未来社会の創発のため、あらゆる分野との接点を探る対話を積極的に行っている。(Photo by Yuki Inui)

【単著】『いのちを呼びさますもの』(2017年)、『いのちはのちのいのちへ』(2020年)(アノニマ・スタジオ)、『ころころするからだ』(2018年、春秋社)、『からだところの健康学』(2019年、NHK出版)、『いのちの居場所』(2022年、扶桑社)、『ことばのくすり』(大和書房)(2023年)、『山のメディスン』(ライフサイエンス出版)(2023年) 【共著】『見えないものに、耳をすますー音楽と医療の対話』大友良英×稲葉俊郎(2017年、アノニマ・スタジオ) 【翻訳書】『身体のデザインに合わせた自然な呼吸法ーアレクサンダー・テクニクで息を調律する』(医道の日本社、2018年)など。

稲葉俊郎芸術監督：今回のテーマ

「いのちをうたう」
(2024)

4つのプロジェクト

- ①周遊型展覧会＋パフォーマンス「ひとひのうた」
- ②アートイベント「山と土と茶と」
- ③展覧会「現代山形考～山はうたう～」
- ④学び&ワークショップ企画「夏芸大」

① 周遊型展覧会+パフォーマンス「ひとひのうた」 (会場：蔵王温泉、東北芸術工科大学)

ひとひのうた



① 周遊型展覧会＋パフォーマンス「ひとひのうた」

●概要

芸術監督・稲葉俊郎は、私たちが自身の心身を見つめる・考えるにあたり、「目覚め」「眠り」が大切であると述べています（稲葉俊郎『ことばのくすり』大和書房、2023年）。「ひとひのうた」は、「1日」（ひとひ）の時間の流れに注目し、蔵王温泉と東北芸術工科大学を会場に実施する、周遊型の展覧会とパフォーマンスのプロジェクトです。

周遊の要としているのは、蔵王温泉に整備されている、医師であり歌人であった斎藤茂吉の「歌碑」をめぐるルート（「蔵王文学のみち」）。本プロジェクトでは、来場者は斎藤茂吉の歌碑に導かれるようにして各所を周遊します。そこここで皆さまをお迎えするのは、美術家、歌人、詩人、シンガーソングライター、デザイナー、ダンサーが、蔵王を歩き、思い巡らせ、見出した、さまざまな「いのち」のすがたです。まちを歩き、風土も体感しながら、じっくりとご鑑賞ください。

●「ひとひのうた」について

「ひとひ」とは「一日」を意味する古語で、斎藤茂吉も歌の中で用いています。

石のひまくぐり流るる谷の水ききつつ吾は一日ここにある（斎藤茂吉『つゆじも』より）

本展では、「一日」を「歌」とともにめぐるように芸術祭を鑑賞してもらいたい、という意図から名づけられました。

●**会場**：東北芸術工科大学（本館1階 THE WALL）、蔵王温泉（旧・丸伝、stand MY、山形市立蔵王体育館、World Cafe PALETTE、蔵王四季のホテルなど）

●**参加アーティスト**：浅野友理子（画家）、池上恵一（マッサージ芸術家）、伊藤紺（歌人）、加藤由美（ダンサー）、兼子京子（ダンサー）、菊地将晃（ダンサー）、斎藤茂吉（歌人）、佐藤有華（ダンサー）、渋谷七奈（ペインター）、砂連尾理（振付家／ダンサー）、管啓次郎（詩人／明治大学教授）、春原直人（画家）、永岡大輔（アーティスト）＋濱定史（建築家）、中村大史（ミュージシャン）、原田綾乃（作家）、前野健太（シンガーソングライター）、大和由佳（アーティスト）、山本桂輔（美術家）、横田勇吾（ダンサー）

●**参加デザイナー**：平野篤史（AFFORDANCE）

○**ディレクター**：小金沢智（東北芸術工科大学専任講師）、アイハラケンジ（アートディレクター／グラフィックデザイナー）

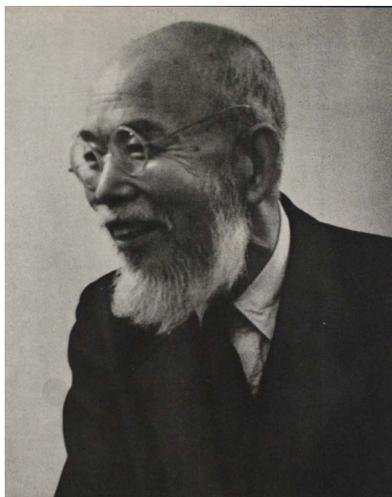
○**アシスタントディレクター**：三浦晴子（フォトグラファー／キュレーター）

大学をスタート地点に蔵王温泉まで、「うた」とともにめぐる周遊型の展覧会

● 展覧会について

山形ビエンナーレ2024のテーマ「いのちをうたう」に、稲葉俊郎『ことばのくすり』の章構成「未明のことば」「朝のことば」「昼のことば」「夜のことば」を全体構成に取り入れ、東北芸術工科大学をスタート地点に蔵王温泉の各所をめぐる周遊型の展覧会として表現するもの。蔵王の自然、風土、歴史、生活の営みからインスピレーションを受け、11名のアーティストがこの土地ならではの作品を新作中心に発表。齊藤茂吉の歌碑が点在する蔵王温泉では、さらに今日の歌人、シンガーソングライターによる詩、歌、短歌が屋外10数箇所で開催する。

● アーティスト（一部）



齋藤茂吉

出典：明虹倶楽部 編 『文化人のプロフィール』
富士写真フィルム、1950年



伊藤紺



管啓次郎 写真：はぎひさこ



前野健太 Photo by Taro Mizutani



渋谷七奈



大和由佳 写真：廣瀬育子

「まちのおくゆき」ダンスパフォーマンス（公演日：9/7 [土]、9/8 [日]）

● パフォーマンス（「まちのおくゆき」）について

多様性の受容・調和をテーマにしながら、異なる身体や感覚を持つ人々同士が、他者について想像する活動を重ねていくプロジェクトで、山形ビエンナーレ2020から継続的に活動を展開。身体を使い、感じることや表現することを軸に、人と人が知り合い関係していくこと、またその中で生じる困難さも受け入れ乗り越えていくことを通して、共に影響し合うクリエイションをつくる場として機能している。前回（2022年）に引き続き今年のビエンナーレでも、市民参加によるダンスワークショップを実施し、蔵王温泉街を舞台に、ダンスパフォーマンスを上演する。

● ダンスパフォーマンス構成・演出 砂連尾理（じゃれお・おさむ）

振付家・ダンサー／立教大学教授。1991年寺田みさことダンスユニットを結成。2002年「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2002」にて「次代を担う振付家賞」（グランプリ）、「オーディエンス賞」をW受賞。2004年京都市芸術文化特別奨励者。2008年度文化庁・在外研修員として、ドイツ・ベルリンに1年滞在。近年はソロ活動を中心に、ドイツの障がい者劇団ティクバとの「Thikwa+Junkan Project」、マレーシア、シンガポール、鹿児島の高齢者との「とつとつダンス」プロジェクト、宮城・閑上の避難所生活者への取材が契機となった「猿とモルターレ」、病や障害などを〈生きる過程にある変容〉と捉え、対話を通してダンスへと変換する「変身 一ええ、私です。又あなたです。」の舞台作品、また濱口竜介監督「不気味なものの肌に触れる」、山城知佳子監督「リフレーミング」、石田智哉監督「へんしんっ！」等、映画作品への振付・出演がある。著書に『老人ホームで生まれたく とつとつダンス〉—ダンスのような、介護のような—』（2016、晶文社）。



山形ビエンナーレ2022「まちのおくゆき」ダンスパフォーマンス
写真：三浦晴子



砂連尾理
写真：草本利枝

② アートイベント「山と土と茶と」 (会場：蔵王温泉)



② アートイベント「山と土と茶と」

●概要：

蔵王の自然を舞台に音楽ライブ、野外インスタレーション、山形のオーガニック食材でつくる料理やスイーツ、山で採取した植物でお茶の可能性を探る実験的なカフェ、1day 温泉リトリート、眠りのスペースなど、五感を呼び覚ます体験型アートイベントを開催します。

●会期：2024年9月7日（土）、8日（日）、14日（土）、15日（日）
合計：4日間

●会場：鳴の谷地沼

●参加アーティスト：air.i_____（調香師）、巖裕美子（音楽家）、上野雄次（アーティスト／花道家）、Umui Emiko（料理人）、角銅真実（音楽家）、金子富之（画家）、川村亘平斎（影絵師／音楽家）、コウノリ（サンシャインジュース）、佐藤洋一郎（ソムリエ／POURPIER）、SCREWDRIVER（彫刻を遊ぶグループ）、瀬戸けいた／瀬戸たま（東北芸術工科大学准教授／マーシャルアーティスト）、高橋廣道（陶芸家）、武田悠（料理人／POURPIER）、トンチ（音楽家）、古門浩二（料理人／gira e gira）、永岡大輔（アーティスト）、濱定史（建築家・建築史家）、村上滋郎（東北芸術工科大学准教授／アーティスト／長井ブルワリークラフトマン代表）、渡部佐喜（料理人／厩戸）

○ディレクター：岩井天志（東北芸術工科大学教授）、深井聡一郎（東北芸術工科大学教授）、渡邊吉太（東北芸術工科大学准教授）

○アシスタントデザイナー：秋本美鈴（デザイナー）



蔵王の自然を舞台に繰り広げる五感を呼び覚ますアートイベント

買う/食べる -9/7(土)8(日)-

山の上の陶器市、オーガニックマーケット
陶器作家、飲食ブース約 30 店舗の出店を予定。陶器市は 7 (土)、8 (日)、マーケットは 7,8,14,15 日の 4 日間開催。



聴く/観る -9/14(土)-15(日)

音楽ライブ 角銅真実 / 巖 裕美子
影絵公演 川村亘平斎 / トンチ
様々な楽器、音、言葉を巧みに使いこなし独自の音楽を切り拓く才能溢れるミュージシャン、角銅真実。パリの伝統影絵を受け継ぐ影画師、川村亘平斎が蔵王の山を背景にライブを行います。



食べる -9/7(土)8(日)- 9/14(土)15(日)-

Yamagata Seasonal Table ポップアップレストラン (要予約/有料)

9/7 は鶴岡のイタリアン gira e gira の古門浩二、8 日は上山のマクロビカフェ蔵戸の渡部佐喜。9/14 は次年子の Umui Emiko、15 日は山形市のナチュラルワイン + ビストロ、ブルピエの武田悠と佐藤洋一郎がスペシャルランチを創作します。



体験する -9/7(土)8(日)- 9/14(土)15(日)-

暴走花いけ号 上野雄次インスタレーション
花道家、上野雄次の車上インスタレーション「暴走花いけ号」が蔵王を一望できる沼の畔に登場します。車上チルスペースから眺める水辺の景色 + 車の上 = 心地よい非日常を体験してください。



観る -9/7(土)8(日)- 9/14(土)15(日)-

眠りの体験 インスタレーション

渡邊吉太、秋本美鈴による眠りの体験インスタレーション。湖畔でうたた寝がコンセプト。



体験する -9/14(土)-15(日)

身体との対話 身体、食、温泉の 1day リトリート
芸術監督/医師の稲葉俊郎、鶴岡 manoma の物書き料理家のマツラユタカ、暮らしの装飾家ミズミノリコをコーディネーターに瞑想、食、温泉を体験し、身体と対話をする 1day リトリート。



③ 展覧会「現代山形考～山はうたう～」 (会場：東北芸術工科大学)



現代山形考～山はうたう～

③ 展覧会「現代山形考～山はうたう～」

●概要

陸奥をふたわけざまに聳えたまふ蔵王の山の雲の中に立つ（斎藤茂吉『白桃』1934年）

山形ビエンナーレ2018以来、民俗・博物資料と現代アート作品によって、さまざまな角度から「山形らしさ」を探り続けてきた「現代山形考」。修復という視点から文化財や美術作品に加え「地域」の問題を掘り下げた「修復は可能か？」（2018年）、かつて山形盆地の中央には大きな湖が広がっていたという伝説を紐解いた「藻が湖伝説」（2020年、2022年）と続き、今回のテーマは「山はうたう」です。

上山出身の歌人・斎藤茂吉や蔵王のスキーを愛した芸術家・岡本太郎も参加アーティストに迎え、修験の地として信仰の蔵王、戦争の記憶を宿す蔵王、リゾート化により変貌を遂げる蔵王、さらには温暖化による樹氷の危機まで、時代背景とともに多様に変遷する蔵王のすがたを辿る展覧会です。

今、山は何をうたうのでしょうか？

●**会場**：東北芸術工科大学（本館7階 THE TOP）

●**参加アーティスト**：岡崎裕美子（歌人）、覚張日梨（関東学院大学院生）、金子富之（画家）、狩野宏明（画家）
鹿野護（映像作家）、現代風神雷神考【荒達宏、井戸博章、halken LLP、三瀬夏之介、宮本晶朗】（修復コレクティブ）
後藤拓朗（画家）、篠優輝（東北芸術工科大学大学院生）、中崎透（美術家）、永岡大輔（アーティスト）、濱定史（建築家）
歩火【川合南菜子、土田翔、三瀬夏之介】（描画コレクティブ）

【物故作家】岡本太郎（芸術家）、斎藤茂吉（歌人）、蔦谷栄三（画家・彫刻家）、長沼孝三（彫刻家）

●**参加デザイナー**：アイハラケンジ

○**ディレクター**：三瀬夏之介（東北芸術工科大学教授）、宮本晶朗（東北芸術工科大学准教授）

○**アシスタントディレクター**：阿部麻衣子（プランナー）

民俗・博物資料と現代アートが入り乱れる空間

● 展覧会について

蔵王連峰は山々の集まりの総称であり、蔵王山という単独峰があるわけではありません。大和国吉野の金峯山から現在の蔵王の山頂に蔵王権現を分祀して修験の地として祀られたことが「蔵王山」の名称の由来となります。プロローグでは蔵王の起源を資料や美術作品によって読み解きます。また信仰の地、蔵王での硫黄採掘や陸軍の研究施設の存在といった忘れられた歴史の記憶を掘り起こし、観光地化する蔵王、樹氷の危機といった歴史的な背景のもとに様々な変遷を辿る蔵王を考える展覧会となります。

● これまでの展示風景

現代山形考～修復は可能か？～（山形ビエンナーレ2018）



展示風景（東北芸術工科大学THE TOP）

現代山形考～藻が湖伝説～（山形ビエンナーレ2022）



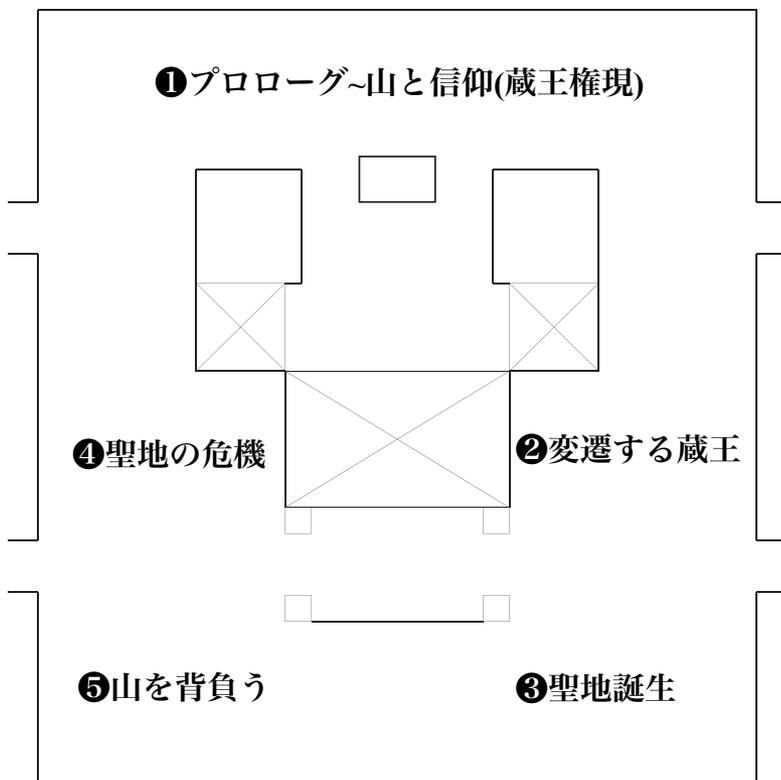
展示風景（文翔館議場ホール）

5つのセクションから考える蔵王のこと

現代山形考 -山はうたう-

会場：東北芸術工科大学THE TOP

●参加アーティスト（一部）



岡崎裕美子



中崎透

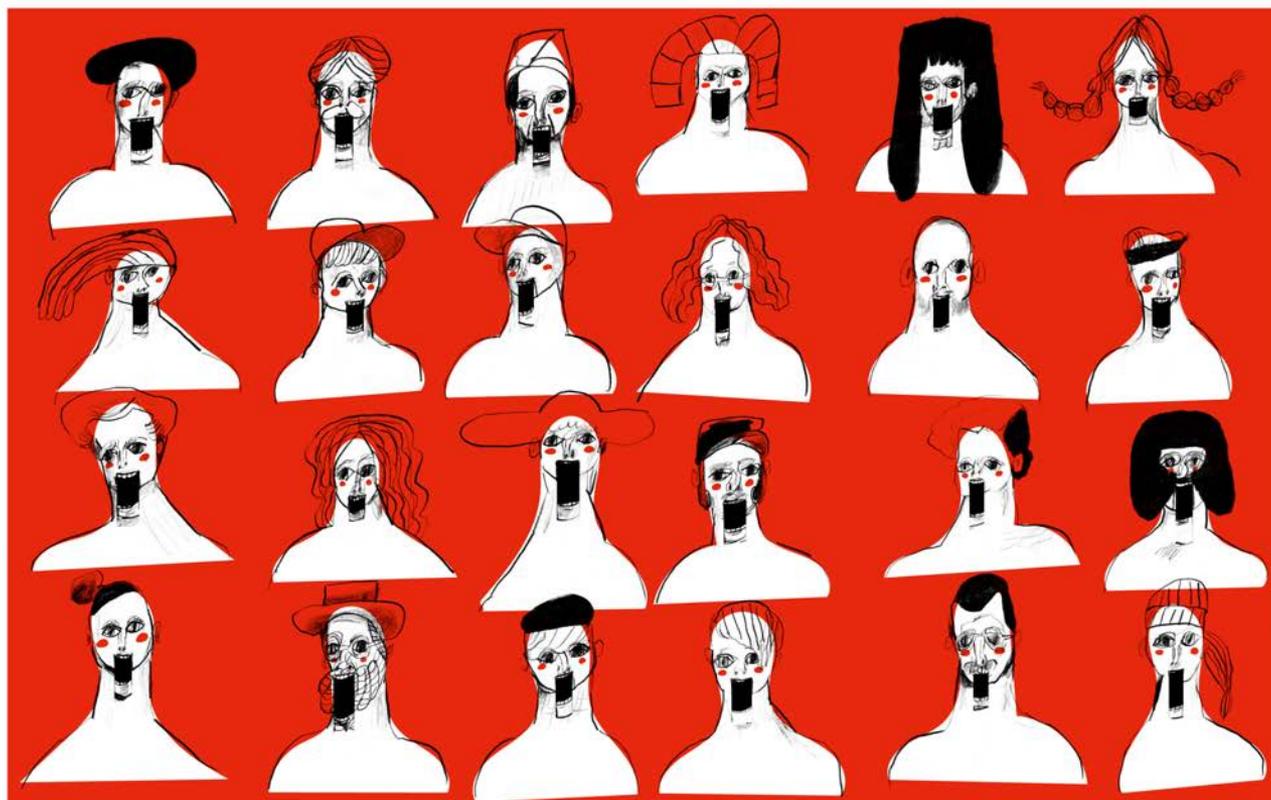


金子富之



現代風神雷神考

④ 学び&ワークショップ企画「夏芸大」 (会場：東北芸術工科大学)



夏芸大

④ 夏芸大

●概要

山形ビエンナーレ2024の関連企画として、芸工大をフィールドに2週間限定（8/24ー9/6）で社会人向けクリエイティブ講座を開催します。一般社会人の方々からプロ向けの講座と、ワークショップ集をお届けいたします。芸工大が誇る各分野のプロクリエイターと教授陣が、およそ、40種類のさまざまなアート&デザインの講座を用意します。お仕事のスキルアップや社員教育、趣味のキッカケづくり、新たな挑戦など、どんな動機の方も大歓迎の企画です。お好きな講座をお楽しみください。

●会場：東北芸術工科大学

●参加講師

根岸 吉太郎(映画監督、東北芸術工科大学 理事長)、井上 貴至(山形市 副市長)、西濱 秀樹(山形交響楽協会専務理事兼事務局長)、陳内 裕樹(内閣府クールジャパンプロデューサー)、早川 敬之(映像ディレクター、プロデューサー)、稲葉 俊郎(医師、慶應義塾大学大学院特任教授)、中山 ダイスケ(アーティスト、デザイナー、ディレクター、東北芸術工科大学 学長)、矢部 寛明(コミュニティデザイン)、澤口 俊輔(現代美術、エデュケーションデザイン)、青野 友哉(考古学、骨考古学)、中右恵理子(西洋絵画修復)、進藤 やす子(イラストレーション)、西 直人(コミュニティデザイン)、サンキュータツオ(日本語学、お笑い)、亀山 博之(アメリカ文学)、檀上 祐樹(地域デザイン)、酒井 恒太(木彫)、鹿野 護(ビジュアルデザイン)、志村直愛(建築史、まちづくり)、高谷 廉(グラフィックデザイン)、馬場 正尊(建築、リノベーション)、村上 滋郎(アーティスト)、末永敏明(日本画家)、粟野 武文(キャリア教育)、森 一貴(参加型デザイン)、望月 孝(写真、広告)、緑川 岳志(マーケティング、ブランドデザイン)、石沢 恵理(アートワークショップ)、酒井 聡(インタフェースデザイン、インタラクションデザイン)、松村 泰三(メディアアート)、トミヤマ ユキコ(日本近現代文学、少女マンガ)、竹内昌義(建築、インテリア)、関 良樹(デジタルビジネス、新規事業開発)、本間 拓真(グラフィックデザイン)、松本 由衣(漆芸)、木原 正徳(絵画)、狩野宏明(油彩)、坂井 直樹(金工)、結城 泰介(銅版画)、中村桂子(木版画)、藤田 謙(ジュエリー)、佐々木 理一(陶芸)、藤田 寿人(家具デザイン)、堀内 芳明(地域デザイン)。(順不同)

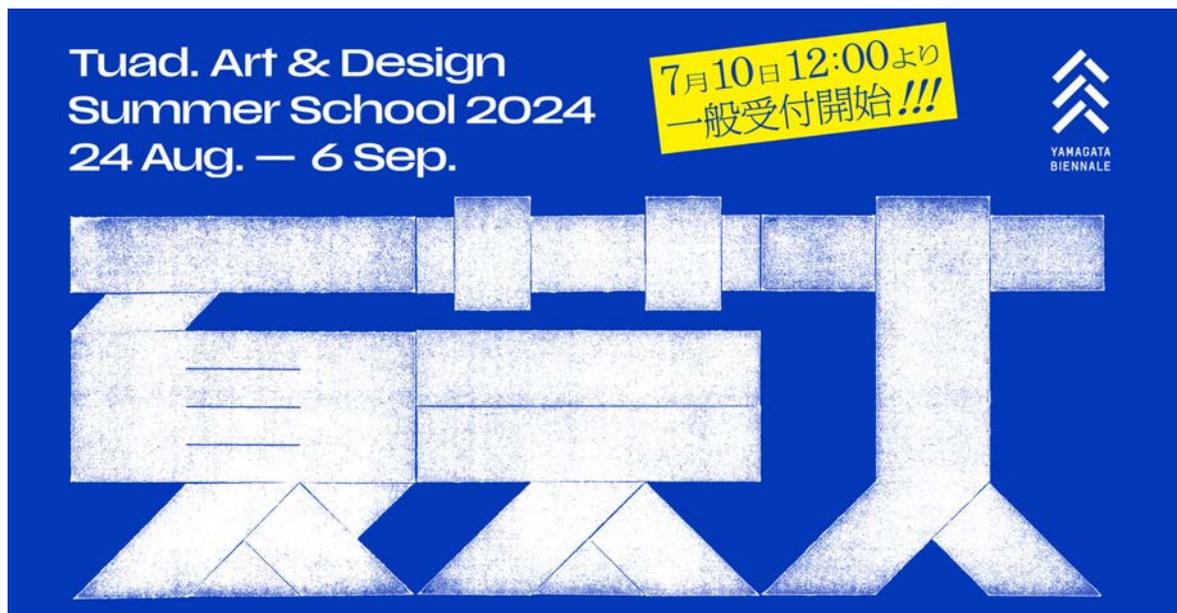
○ディレクター：中山 ダイスケ（東北芸術工科大学 学長）

青山 ひろゆき（東北芸術工科大学 教授）安達 大悟（東北芸術工科大学 准教授）

○アートディレクション：高谷 廉（東北芸術工科大学 准教授）

○webデザイン：本間 拓真（東北芸術工科大学 専任講師）

この夏、あなたも芸工大生！ 2週間限定、社会人向けクリエイティブ講座



4つの講座スタイル

- 平日講座
- 休日講座
- 講演会
- 無料講座

「新しい豊かさのヒントを」

時代は急変しています。国は痩せ、人は減り、お金の価値もかわり、建物は余っていきます。これまで当たりまえのように用意されていた豊かさの姿は変わってゆくのです。私たちは自ら学び、自らの発想力で、自らの世界を豊かに生き抜かなければなりません。北日本最大の芸術大学である東北芸術工科大学は、豊かに生きるための学問「アート&デザイン」の学びを、地域の様々な世代のみなさまとシェアするべく、少しのお時間とお手頃な価格で学んでいただける本気のプログラムをご用意いたしました。小さな講座&ワークショップの集まりですが、2週間だけ「芸工大生」に成りきって、新しい豊かさのヒントと出会っていただくと幸いです。

東北芸術工科大学 学長 中山 ダイスケ



芸工大が地域に開く「アート&デザイン」の“50講座”

● 平日講座・・・講義とレクチャーを組み合わせた、今の自分を高める”160分“



〈主な講師陣〉



● 休日制作・・・製作・制作を中心に新たな挑戦の”2日間“

〈主な講座イメージ〉



● 無料講座・・・アートやデザインの豊かさを知る“80分”

山形エクセレントデザイン「山形をひらく、みんなのデザイン」、山形ビエンナーレ2024のディレクターによるプロジェクト紹介！

● 講演会・・・日本・山形の最前線と未来を学ぶ”80分“

〈主な講師陣〉



根岸 吉太郎(映画監督)



井上 貴至(山形市 副市長)



西濱 秀樹(山形交響楽協会 専務理事兼事務局長)



陳内 裕樹(内閣府クールジャパンプロデューサー)

映画監督って、何を考えているのか。

なぜ山形市は、日本中から注目されるのか？

山形交響楽団の謎に迫る、オーケストラの物語

山形の未来を創る、DX～虎ンスフォーメーション

文化庁補助事業 「令和6年度大学における文化芸術推進事業」

温泉地を舞台にした持続可能な

「アート&ウェルビーイング」人材育成プログラム

温泉地を舞台にした持続可能な「アート&ウェルビーイング」人材育成プログラム

●概要

心身が「良い状態」を保つため、文化芸術の健康への効能が期待される昨今、令和6年度からスタートする当事業では、「山形ビエンナーレ」過去5回の成果を基礎としながら、舞台を中心市街地から温泉地へと移し、持続可能な【アート&ウェルビーイング】をテーマに、新たなアートプロジェクトを開発・実施します。これまで試行してきた中心市街地を舞台とするアートプロジェクトのノウハウを温泉地へと展開し、文化芸術の視点で温泉地が独自に有する地域資源を活用し、訪れる人々の心身の健康回復プログラムを企画・実践できる人材、さらには、地域資源を活用しながら新たな文化・芸術の作り手となる新進芸術家の育成を目指します。

※温泉地を舞台にした、持続可能な【アート&ウェルビーイング】人材とは
アートプロジェクトのノウハウを温泉地へと展開し、文化芸術の視点で温泉地が独自に有する地域資源を活用し、訪れる人々の心身の健康回復プログラムを企画・実践できる人材。

東北芸術工科大学では、以下4つの人材育成講座を開講中です

受講生による受講成果を、山形ビエンナーレ2024で発表します

●4つの人材育成講座（キュレーション／ツーリズム／ダンスワークショップ／新進芸術家育成）

- ①キュレーションの MATERIAL：歩行・言葉・映像
- ②「ざおうラジオ～トレッキング&ヒアリング～」蔵王を舞台にした、ツーリズムラジオコンテンツの制作
- ③まちのおくゆき ～ことばとからだの温泉ダンスワークショップ～
- ④現代山形考 ―山とうたう― 『忘れられた歴史の記憶を掘り起こす』

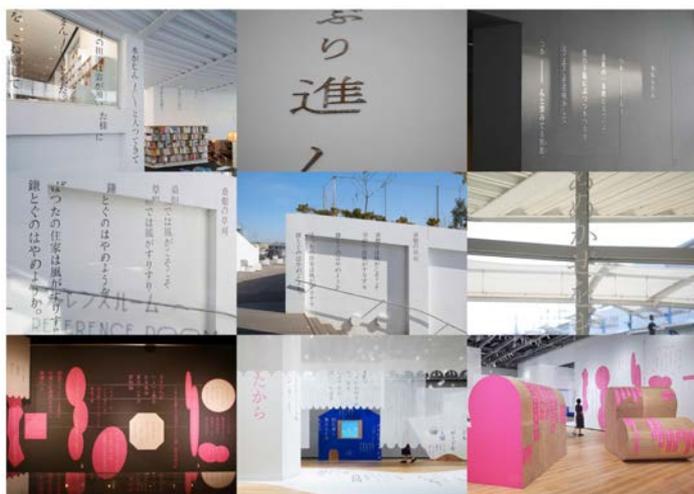
4つの人材育成講座の実施と、山形ビエンナーレ2024での成果発表

① キュレーションのマテリアル：歩行・言葉・映像

講師：岡安賢一（ビデオグラファー / 合同会社岡安映像デザイン代表）、管啓次郎（詩人 / 明治大学教授）、
平野篤史（デザイナー / AFFORDANCE）、大和由佳（アーティスト）
コーディネーター：小金沢智（キュレーター / 本学専任講師）

② 「ざおうラジオ～トレッキング&ヒアリング～」蔵王を舞台にした、ツーリズムラジオコンテンツの制作

講師：鈴木伸夫（編集者・ライター / gatta!）、那須ミノル（編集者・ライター / リアルローカル山形）、
井上春香（編集者・ライター / リアルローカル山形）ほか
コーディネーター：アイハラケンジ（アートディレクター / グラフィックデザイナー）



アートディレクション：平野篤史 (AFFORDANCE)
上段2段：太田市美術館・図書館 開館3周年記念展「HOME/TOWN」
下段1段：徳万智展 #たったひとつの「いいね」『サラダ記念日』から『未来のサイズ』まで



やまがたビエンナーレ 2018 より

4つの人材育成講座の実施と、山形ビエンナーレ2024での成果発表

③ まちのおくゆき ～ことばとからだの温泉ダンスワークショップ～

講師：砂連尾理（振付家・ダンサー／立教大学教授）、菊地将晃（ダンサー）、佐藤有華（ダンサー）

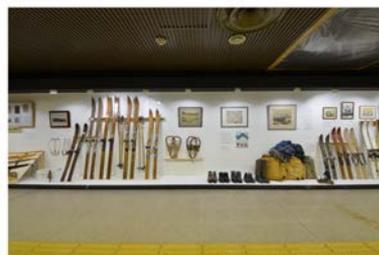
コーディネーター：アイハラケンジ（アートディレクター／グラフィックデザイナー）

アシスタントコーディネーター：三浦晴子（フォトグラファー／キュレーター）、武田和恵（福祉とアートのコーディネーター／やまがたアートサポートセンターら・ら・ら）、岩中可南子（アートコーディネーター）

④ 現代山形考 ―山とうたう― 『忘れられた歴史の記憶を掘り起こす』

講師：岡崎裕美子（歌人）、中崎透（美術家）、永岡大輔（アーティスト）ほか

コーディネーター：三瀬夏之介（画家・キュレーター／本学教授）、宮本晶朗（修復家・キュレーター／本学准教授）



「中崎透・丸尾・スノー・シアターを思い起こして」
2022 展示風景 撮影：中崎透／Yoshihiko Kaneko



「山形ビエンナーレ2024のMAプレイ」ワークショップ風景



「山形ビエンナーレ2024のMAプレイ」展示風景



「山形ビエンナーレ2024のMAプレイ」ワークショップ風景